

Fluorを用いた診察の様子。糖尿病と同様、ひざなどに痛みや変形が生じる変形性関節症も、土踏まずなどの足のアーチの崩れで起こるケースが少なくないという



医療ジャーナリスト  
**伊藤隼也**が行く！  
ニッポンの医療現場 第44回

## 足を治し、足を守る 外反母趾、巻き爪、水虫…… いま必要なのは足の専門医

歩く、立つ、体を支える——。実にさまざまな機能を持つ人間の足だが、日本には足をトータルで診る足の専門医がほとんどいない。「足のトラブルは健康問題に直結することもある。専門医の存在は不可欠」と、日本初を標榜する足専門クリニックの医師は話す。

**「脚医者はいるのに、足医者はなぜいない？」**

夏も近づき、サンダルなどを履く男女が増えてきた。素足になると気になるのは、タコや外反母趾、巻き爪などではないだろうか。

「これほど足に悩んでいる人が多いのかと、正直なところ驚いています」と話すのは、この春、東京・表参道に開院した足専門のクリニック「足の診療所」の院長、桑原靖医師だ。靴の文化が長いアメリカでは、足の構造や病気の学問「ポダイアトリー（足病学）」があり、「ポダイアトリスト」と呼ばれる足専門の外科医が存在する。

同院は、この足病学の考え方を導入した日本初のクリニックだ。開院して2カ月ほどだが、すでに約600人の患者が受診し、現在は初診で2カ月待ちという。足の専門というと、外反母趾外傷や水虫外傷などを標榜する病院やクリニックもある。それらとどう違うのか、桑原医師は説明する。「日本では、外反母趾は整形外科、巻き爪は形成外科



立って写した足の甲のX線写真。体重がかかったときの足の状態が分かる

最後の望みを託し「足の診療所」を受診。桑原医師が診ると、原因は足の関節の炎症であり、それを治療することで、痛みがとれたという。

「触診や超音波で確認すれば、痛みの原因はだいたい分かります。問題は、この女性のようなケースが少なくないこと。日本は足の診療では遅れていると痛感しています」（桑原医師）

アメリカでは、糖尿病患者が足を切断しなければならなかったのは、内科医が適切に足治療の血管外科医を紹介しなかったからだとして、その内科医の医師免許が剥奪されたケースさえある。やはり、どんな病気も理由もなく治らない状態が続いたら、他の専門家を探すべきだ。残念ながら、医師や医療機関の実力に差があるのも現実である。



クリニックでは立ったままの足を写せるように、X線検査装置の横に台を取り付けなどの工夫をしている

水虫は皮膚科、足に血管のコブができる下肢静脈瘤などは血管外科というように、足の疾患でも扱う診療科は別々です。当院がそういう外来と違うのは、足をトータルに診る点です。アメリカのポダイアトリストから直接、定期的にレクチャーを受け、それを日々の診療に応用しています」

診療の対象となるのは、タコや巻き爪、足の変形、関節炎、足の痛み、水虫など、ひざから下に起こるさまざまなトラブルだ。来院した患者は、まずiPadを使った問診や看護師による足首の可動域のチェックなどを受けた後、必要に応じてX線や超音波などの画像検査や血液検査を実施。

その結果を診ながら医師が診察し、必要な治療を行う。同院が検査で行うX線撮影もアメリカ流で、立ったまま「リアルな足」を撮影する。これにより、体重をかけたときの骨の変形や位置のずれ、足のアーチの崩れなどが分かる。

「足の痛みの診断には、立ったままで撮影するのがいいのですが、なぜか日本ではこういうやり方をしておらず、アメリカなどで使われている足専用の小型のX線検査装置も、日本ではまだ使えません」（桑原医師）

「巻き爪のある患者さんに、手術で治しましょう」と説明すると、驚かれる方がとても多い。巻き爪は矯正などに対応するものだと思っただけで、もちろんそれよりもいいのですが、結局は、元に戻ってしまいます。歩き方の指導と治療用足底板の利用、そこに必要であれば手術を組み合わせたことで、根本的な治療が可能になります」

### 「足の痛み」なのに「心の病」と診断

ところで、アメリカなどで足病学が重視されるのは、これらが全身の病気と関係する例があるからだ。代表的なものが、糖尿病の合併症である末梢神経障害だ。糖尿病が進行すると、神経がマヒし、足先の感覚が鈍くなっていく。靴擦れやケガをしても気づかないため、知らず知らずのうちに細菌に感染し、潰瘍や壊疽（腐る）が起こる。そうなる

と治療は非常に難しく、足や足の指を切断せざるを得ない。以前、埼玉医科大学の形成外科で、泣く泣く切断を決意する患者を診ていた桑原医師。外反母趾や水虫などを抱えていると、糖尿病になったときに足を切断するリスクが高まる。それを防ぎたいと、糖尿病があるなしにかかわらず、足を治療する専門のクリニックを立ち上げた。

こうした専門家の存在は、足のトラブルに悩む人にとっても救いだ。受診先が分からなかったり、思ったような治療を受けられなかったりして、苦悩する患者は少なくないからだ。

足の痛みでいくつかの病院を訪ねた女性は、受診した先々の医師から「問題ない」「様子を見ましょう」と言われ続け、しまいには「心の病」と診断され、向精神薬を服用することに。それでも治らなかつたため